朝日町立朝日中学校学校新聞

きらめき朝日

令和7年2月14日号

校長　横井　真人

村山建設様より教育委員会を通して20万円の寄付をいただきました

２月５日（水）に村山建設様より20万円のご寄付をいただきました。当日は、村山建設　成原明社長をはじめ、きらやか銀行様、朝日町教育委員会ご臨席の下、贈呈式を行いました。校長が目録をいただき、謝辞を述べた次第です。山形新聞や建設関係の新聞社、町の広報担当など様々な方々が取材に訪れました。すでに山形新聞には報道されております。報道の通り、成原社長からは「町の将来を担う子どもたちのために有効に活用してほしい」とお言葉をいただきました。せっかくのご寄付ですので、今の生徒に直接的に生かせるもの、そして義務教育学校でも生かせるものを熟慮して活用を考えていきたいと思います。村山建設様にはこの場をお借りして、あらためて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

先生方の研修の様子

月曜日と木曜日は部活動がありません。その時間を利用して先生方は何をしているのか、紹介したいと思います。まずは会議です。職員会議は年間に10回計画されています。その時間に充てます。また、職員会議にかける議題を各担当の先生方で話し合わなければなり

ません。その会議を分掌部会と言います。その時間に充てます。そして今回紹介するのは、先生方の研修会です。先生方は教育基本法や教育公務員特例法という法律によって、研修そのものが仕事になっています。研修にもいろいろありますが、授業研究会や外部の方をお願いしての講話も研修になります。また、先生方同士で生徒の皆さんの学力向上や心配なことなどを話し合い、取り組みを考えたり、方向性を決めたりするのも研修の一つです。写真は2月6日に学力向上を目指して行った研修会の様子です。

伝統を守る（生徒の皆さんへ）

（校長の独り言）

一昔、伝統校と言われるところによく練習試合に行った。あの監督は指導が上手だといわれる学校は、逆に言えばその人が異動するとその学校が弱くなるので私はあまり評価しない。しかし、伝統校はどんなに監督が代わってもその強さを持ち続ける。なぜなのか、伝統校にはつないできた独特の技があるのか、というとそうでもない。ではなぜ強さを持ち続けられるのか。考えた。伝統校に行くといつも変わらないのはその雰囲気である。どんなにへたくそな人でも、代々つないできた雰囲気の中に入ると、その雰囲気になじめられればへたくそでなくなるのである。

それを朝日中に当てはめてみた。昨年からお世話になった私が感じられるのはほんの少しのことだが、いいなあと思うことが二つある。一つはあいさつである。昇降口に立っていると、大きな声で、目を向けてあいさつをしてくれる生徒が多い。町内の小学校の校長先生からも会うたびに中学生のあいさつは立派だねとお褒めの言葉をいただいていた。

二つ目は、思いやりである。昇降口で込み合うのは、山交バスの生徒が来た時だ。でも誰もがスムーズに教室に移動できる。理由は、ズックを取るとその場ではかずに、広い廊下までズックをもっていき、履くからだ。次に来る人、またはそこにいる人を思いやっての行動である。

あいさつにしても、ズックを履く場所にしても、当の本人は全く意識をしていないかもしれない。しかし、それが自然にできる、それが当たり前だからできるというのは、雰囲気ができあがっているということではないのだろうか。

あいさつをしたり、他人のことを思いやって行動したりが薄れていくこの社会にあって、伝統の重要性と伝統を守ることの難しさをひしひしと感じる。

朝日中の生徒の皆さんは代々いい伝統を築き、そしてそれをつないできた。これからもぜひこの伝統をつないでほしいと思う。いや多分、つながれていくだろう。この雰囲気があるかぎり。

学校新聞の文字の大きさについて

２月５日にPTAの常任委員会が開かれました。そこでご意見をいただいたのが、学校から発行される文書等の見やすさについてです。文字をもっと大きくした方が見やすいのではないか、ということでした。直接この「学校新聞」にいただいたご意見ではありませんでしたが、「なるほど」と共感しました。そこで、この「学校新聞」も見やすくするため、フォントをあげました。今までは12ポイントでの表記でしたが、1ポイントあげて13ポイントにしました。ご家庭でもおじいちゃんやおばあちゃんにも見ていただくことを考えれば、当たり前のことと勉強させていただきました。ありがとうございました。今後も見やすい表記を心にとめて、発行してまいりたいと思います。